

zxjafont パッケージ (v0.6)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

v0.6 [2020/01/12]

1 概要

X_qLaTeX + fontspec でのフォントファミリ名を直接指定する方式は「好きなフォントを指定する」という点では、pLaTeX よりも格段に使い易いが、日本語を扱うためには必ず何らかの設定を行う必要があり、これが煩わしく感じられる場合もある。本パッケージでは、日本語 LaTeX において一般的に行われている設定を予め用意しておいて、簡単に呼び出せるようにしている。

■前提環境

- フォーマット：LaTeX
- エンジン：XeTeX
- 依存パッケージ：fontspec パッケージ

2 使い方

以下のようにパッケージを読み込むだけである。(ユーザ命令・環境はない。)

```
\usepackage[<メイン設定>,<サブ設定>,<他オプション>]{zxjafont}
```

<メイン設定> は 1 つだけ指定できるが、<サブ設定> と <他オプション> は任意個数指定可能である。もし fontspec が未読込の場合は自動的に読み込む。X_qLaTeX には和文と欧文の元来の区別がないので、このパッケージで指定するフォントが全ての文字に通用する。ただし、zxjatype パッケージでは和文と欧文を区別するので、それと併用の場合は和文のみにフォント設定が適用される。

2.1 メイン設定

総称ファミリの設定 (fontspec の \setmainfont、\setsansfont、\setmonofont) を行うもの。

※「メイン設定」は pxchfon パッケージにおける「プリセット設定」をそのまま (ただし明朝・ゴシック 2 ウェイトに縮減して) 引き継いでいる。設定内容の詳細については、pxchfon の説明書を参照してほしい。

※かつての fontspec では取り扱うフォントのウェイトが通常 (\mdseries) と太字 (\bfseries) の 2 つに限られていた。現在の fontspec では追加のウェイトがサポートされているが、残念ながら現状の zxjafont はまだ 3 ウェイト以上の設定には対応できていない。

■単ウェイト用の設定 明朝・ゴシック各々 1 ウェイトのみを用いる設定。セリフ (`\rmfamily`) に明朝、サンセリフ (`\sffamily`) と等幅 (`\ttfamily`) にゴシックを割り当てる。さらに、`pLaTeX` の習慣に合わせて、セリフの太字 (`\bfseries`) もゴシックにする。(これは必ずしも好ましい設定ではないことに注意。)

- `ms` : MS フォント。
- `ipa` : IPA フォント。
- `ipaex` : IPAex フォント。

※ `XqLaTeX` は「フォント非埋込の PDF 生成」に対応していない。

■多ウェイト用の設定 明朝・ゴシック各々 2 ウェイトを用いる設定。セリフに明朝、サンセリフと等幅にゴシックを割り当て、各々について通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) を個別に設定する。

- `ms-hg` : MS フォント + HG フォント。
※ HG フォント = Microsoft Office 付属の日本語フォント
- `ipa-hg` : IPA フォント + HG フォント。
- `ipaex-hg` : IPAex フォント + HG フォント。
- `moga` : Moga フォント (2004JIS 字形)。
※ MogaEx 系統が用いられる。
- `moga-90` : Moga フォント (90 / 2000JIS 字形)。
※ MogaEx90 系統が用いられる。
- `ume` : 梅フォント。
- `kozuka-pro` : 小塚フォント (Pro 版)。
- `kozuka-pr6` : 小塚フォント (Pr6 版)。
- `kozuka-pr6n` : 小塚フォント (Pr6N 版)。
- `hiragino-pro` : ヒラギノフォント基本 6 書体セット (Pro/Std 版)。
- `hiragino-pron` : ヒラギノフォント基本 6 書体セット (ProN/StdN 版)。
- `morisawa-pro` : モリサワフォント基本 7 書体 (Pro 版)。
- `morisawa-pr6n` : モリサワフォント基本 7 書体 (Pr6N 版)。
- `yu-win` : 游書体 (Windows 8.1 搭載版)。
- `yu-win10` : 游書体 (Windows 10 搭載版)。
- `yu-osx` : 游書体 (macOS 搭載版)。
- `sourcehan` : Source Han Serif (源ノ明朝) + Source Han Sans (源ノ角ゴシック)、非サブセット版^{*1}。
- `sourcehan-jp` : Source Han Serif + Source Han Sans、日本用地域別サブセット版。
- `noto` : Noto Serif CJK + Noto Sans CJK、非サブセット版。
- `noto-jp` : Noto Serif JP + Noto Sans JP、日本用地域別サブセット版。
- `haranoaji` : 原ノ味フォント。

■他パッケージとの互換用のオプション

^{*1} つまり、地域別サブセット OTF 版以外のもの。後掲の `noto` も同じ。

- `kozuka` : `kozuka-pro` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)
- `morisawa` : `morisawa-pro` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)
- `moga-mobo-ex` : `moga` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)
- `noto-otf` : `noto` の別名。(luatexja-preset でのプリセット名。)
- `hiragino` : `hiragino-pro` の別名。(ptex-fontmaps でのプリセット名。)

※ 0.6 版で追加。0.4 版以前では `hiragino` が別の設定を指していたが、これは 0.5 版で廃止された。

■ 廃止されたプリセット設定 0.2a 版以前で用意されていた次のプリセット設定は、0.5 版において廃止された。現在は指定するとエラーが発生する。

※ たあし `hiragino` は現在は `hiragino-pro` の別名と解釈される。

`kozuka4`, `kozuka6`, `kozuka6n`, `hiragino`, `ms-dx`, `ipa-dx`, `hiragino-dx`

2.2 サブ設定

`fontspec` では使用するフォントを `\newfontfamily` 命令で増やすことができる。それを利用した追加設定である。

- `hg` : Microsoft Office のフォント (HG フォント) に対応する、以下のファミリー命令が定義される。
 - `\hgmcfamily` : HGS 明朝 B、太字 = HGS 明朝 E。
 - `\hgprfamily` : HGS 創英^{ゴシック} EB
 - `\hggtfamily` : HGS ^{ゴシック} M、太字 = HGS ^{ゴシック} E。
 - `\hggufamily` : HGS 創英角^{ゴシック} UB
 - `\hgmfamily` : HG 丸^{ゴシック} M-PRO
 - `\hgkkfamily` : HGS 教科書体
 - `\hgksfamily` : HG 正楷書体-PRO
 - `\hggsfamily` : HGS 行書体
 - `\hgppfamily` : HGS 創英角^{ゴシック} 体
- `hiraginomg` : ヒラギノの丸ゴシックを使う設定。
 - `\hmgfamily` : ヒラギノ丸ゴ Pro W4
- `mobo` : Mobo フォント (2004JIS 字形) を使う設定。
 - `\mobofamily` : Mobo フォント (2004JIS 字形)
- `mobo-90` : Mobo フォント (90 / 2000JIS 字形) を使う設定。
 - `\mobofamily` : Mobo フォント (90 / 2000JIS 字形)
- `maruberi` : マルベリフォントを使う設定。
 - `\mmfamily` : モトヤ L マルベリ 3 等幅

2.3 その他のオプション

- `oneweight` : 多ウェイト用のメイン設定を単ウェイトとして用いる。

※ `pxchfon` の説明書の記述において `\setminchofont` と `\setgothicfont` で設定されているウェイトのフォントが用いられる。

- `nooneweight` : `oneweight` の否定。
- `prop` : プロポーションアル幅のフォントを用いる。例えば、「IPA 明朝」の代わりに「IPA P 明朝」、「HGS 行書体」の代わりに「HGP 行書体」を指定する。既定で用いるのは等幅のフォントだが、「欧文のみプロポーションアル」の変種（HG フォントの場合「HGS～」名称のもの）がある場合はそれを優先させている。

※ `zxjatype` を用いる場合は、和文は等幅フォントを用いることが前提なので、このオプションは指定できない（エラーになる）。

- `noprop` : `prop` の否定。（和文が）等幅のフォントを用いる。
- `scale=<実数>` : スケール値（`fontspec` の `Scale` 属性の値）。既定値は、`BXjscls` の文書クラスおよび `zxjatype` パッケージで指定されている場合はその値、なければ 1 となる。
- `jis90/90jis` : 90JIS 字形（2000JIS 字形）の使用を指定する。
- `jis2004/2004jis` : 2004JIS 字形の使用を指定する。
- `feature={<属性リスト>}` : このパッケージで指定されるフォント全てに通用する `fontspec` の属性の指定。